

英語から翻訳・アンネフランク：全体の物語は、1998年の本アンネフランク：メリッサミュラーの伝記に基づいた2001年の2部構成のミニシリーズです。ミニシリーズは2001年5月20日と21日にABCで放映されました。このシリーズでは、ベンキングズレー、ブレンダブレッシン、ハンナテイラーゴードン、リリテイラーが主演しました。 ウィキペディア（英語） 原作： Anne Frank: The Biography

内容

1941年、オランダ、アムステルダム。第二次世界大戦の戦渦がこの町をものみこもうとしていた。ちょうど12歳になったアンネ・フランク（ハナ・テイラー・ゴードン）は、誰もが平等に与えられている幸せな少女時代を謳歌していた。しかし、そんな彼女にも、ナチス政権下の暗い影が近づきつつあった。アムステルダムに住む多くのユダヤ人も、強制収容所に送られ始め、ついにアンネの姉、マルゴーに収容所行きの通告が届いた。そして、父のオットー（ベン・キングズレー）は前々から考案していた自分の事務所の屋根裏へ家族全員で移り住み、ゲシュタポの目から逃れるという計画を家族に告げる。外界とは一切遮断された暗くて狭い屋根裏部屋で、近隣の数家族と一緒に隠れた生活が始まった。大好きな友との突然の別れ、好きだった家、そして太陽の下での生活を奪われたアンネ。しかし、それでも彼女は明るさを忘れず、見るもの全てにイマジネーションを働かせ、世の中の“美しい”ものを見つけ出した。そして、そこでの生活の全てを、父から誕生日プレゼントにもらった可愛い日記帳にしたためていった……。

アムステルダムで、家族や友人の愛に包まれて育つ12歳のアンネ・フランク。しかし第2次大戦の戦禍はオランダにも迫り……。メリッサ・ミュラーが記した『アンネの伝記』と多数の関係者の取材をもとに、第三者的視点で描かれた悲劇作。（CD ジャーナル データベースより）

ミリー・パーキンス出演による「アンネの日記」とは、また異なる趣をもった素晴らしい作品。特にベン・キングズレー演じるオットー・フランク（アンネの父親役）の演技が際立っている。ナチによる強制収容から解放され、オランダに戻ったオットーがミープと再開する場面で、「妻は戻らない」といった後、ふと空を見上げる時に見せる表情には、愛する妻を亡くした夫のこころの奥の悲しみが集約されて表現されていて、見事のひとこと。映画の最後で幸福だった頃のアンネが一際幸せそうに微笑む場面で終わるのも印象的。いつまでここに残る作品

キャスト

ハナ・テイラー・ゴードン（アンネ・フランク）

ベン・キングズレー（オットー・フランク）